

年齢		満2・3歳	3歳児	4歳児	5歳児	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育において育みたい資質・能力	小学校以上／教科横断的・総合的に育成すべき様々な資質・能力
教育目標（学年の重点）		想像力を広げながら集団活動に参加する。	身近な仲間や自然等の環境と積極的に関わり、意欲を持って活動する。	信頼感を深め、仲間とともに感情豊かな表現をする。	集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる。			
領域	ねらい	内容				10項目 (46細目は別表)	資質・能力の3本の柱	資質・能力の3本の柱
健 康	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	●運動、指先の機能の発達 ●自ら食べる意欲 ●食育を通して体に優しい味に親しむ	●意欲的な活動 ●基本的生活習慣の確立 ●食育を通して体に優しい味に親しむ ●時間のメリハリをつける	●健康への関心 ●体全体の協応運動 ●体調について自分で伝える ●食育を通して体に優しい味に親しむ ●時間のメリハリをつける	●健康増進とさらなる挑戦への意欲 ●安全で安定感のある行動 ●友達の体調の変化に気づき保育者に伝える ●食育を通して体に優しい味に親しむ ●時間のメリハリをつける	(1) 健康な心と体 (2) 自立心	個別の「知識及び技能の基礎」 ・基本的生活習慣の獲得 ・規則性、法則性、関連性等の発見、様々な気づき、発見の喜び ・身体感覚の育成・日常生活に必要な言葉の理解 ・身体的基礎や芸術表現のための基礎的な技能の基礎の獲得等	個別の「知識や技能」 (何を知っているか、何ができるか)
人間関係	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。 (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける	●自己主張の表出 ●友達との関わりが増大 ●思い通りにならないことへの葛藤経験	●自分でしようとする意志 ●道徳性の芽生えと並行遊びの充実	●仲間との深いつながり ●相手の思いへの気づき	●社会性の確立と自立心の育成 ●自分で考え自分で行動 ●友達と意思の共感	(3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え	「思考力、判断力、表現力等の基礎」 ・試行錯誤、工夫 ・予想、予測、比較、分類、確認	「思考力、判断力、表現力等」 (知っていること、できることをどう使うか)
環 境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。 (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3)	●神さまの愛に包まれていることを感じながら過ごす ●自然事象への積極的な関わり ●自然の大きさ、美しさ、不思議さへの気づき	●神さまの愛に包まれていることを感じながら過ごす ●身近な環境への積極的な関わり ●身近なものを大切にする心	●神さまへの感謝をする ●社会事象への関心の高まり ●工夫して遊ぶ楽しさ	●神さまへの感謝を忘れない ●社会、自然事象へのさらなる関心と生活への取り入れ ●物の性質や仕組みへの興味と関心 ●数量、図形、標識、文字、国旗への関心 ●自分のことは自分でできるようにする	(5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え	・ほかの幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ ・言葉による表現、伝え合い ・振り返り、次への見通し、自分なりの表現等	
言 葉	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と	●言葉のやり取りの楽しさ ●日常の挨拶への親しみ ●絵本に接する	●言葉の美しさ、楽しさへの気づき ●生活の中での必要な言葉の理解と使用 ●絵本に接する	●伝える力、聞く力の獲得 ●絵本や物語への親しみ	●文字や数字の獲得による遊びの発展 ●体験によるイメージや言葉の広がり	(7) 自然との関わり・生命尊重 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	心情、意欲、態度 「学びに向かう力、人間性等」	「学びに向かう力、人間性等」 情意・態度に関わるもの(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
表 現	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	●象徴機能の発達とイメージの膨らみ ●音、色、形、手触り、動きを感じる楽しさ ●楽器や絵本に触れる	●自由な表現と豊かな感性の育ち ●感動体験を伝え合う楽しさ ●遊具や道具を用いて形を作る ●絵本や楽器など道具を使う	●豊かな感性による表現 ●心を動かす出来事による想像力と感性の獲得 ●手先を用いて自由な想像力から形を作る	●豊かな感性による様々な表現 ●感動の共有 ●体験を通じた表現 ●自己の思いを音や色、物、であらわす。	(9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現	思いやり ・安定した情緒 ・自信 ・相手の気持ちの受容 ・好奇心、探究心 ・葛藤、自分への向き合い、折り合い ・話し合い、目的の共有、協力 ・表現に対する喜び ・色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚 ・自然現象や社会現象等への関心等	
小学校の接続と連携	教育及び保育の内容の工夫を図る。 いづれ園児と小学校の児童の交流の機会を設ける。 小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設ける。	満3歳入園の時期が異なるため、実際の教育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しをもって園児を指導する。また、それぞれの園児の基本的生活習慣の確立に努める。	満3歳からの継続入園と3歳児入園が混在する中で、基本的生活習慣の確立とともに集団生活の中でのきまりや他児との関わりに配慮する。また、独自の教育体制としての地域学・英語教育の始まりの時期でもある。	4歳児クラスは、後期になったら対外的な行事への参加を積極的に行い、積極的な歌や楽器、絵画など表現活動を指導する。	5歳児クラスでは小学校に向けて認知活動と共に自立に向けて取り組む。 ・アプローチカリキュラムの推進 ・園外活動の実施による交通安全や人との出会いの場を充実させる ・楽器などを積極的に用いる表現活動の指導 ・小学校への要録提出	接続期 ・スタートカリキュラム ・園と小学校担当者会議開催	※ねらいは、幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。 ※各領域は、これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。内容の取扱いは、幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。	
備考	大分県の「しんけんあそび」の徹底	※カリキュラム・マネジメントに努める。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ全体的な計画を作成し、人的物的面の確保等をして、組織計画的に教育及び保育活動の質の向上を図っていくことを指す。		※幼児教育とは環境を通して行う教育をいう。発達に必要な体験、自発的な活動としての遊びは発達の基礎を培う重要な学習である。		※5領域のねらいは心情、意欲、態度を示しているが、本来は心情、意欲、態度等を5つの領域で教育しているということである。		※育みたい資質・能力は相互に関連し、例示は5領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から主なものを取り出したものである。
対象者等	1号・新2号認定（満3歳以上で教育認定を受けた者） ※特別な配慮を必要とする園児に対する指導について、十分配慮する。 ※指導の重点としては、学年の重点事項とともに、それぞれの個人の重点を定め、集団の中で幼児教育の指導を受ける。その際、共同作業をしながら友達等との人間関係育成に努めるように教育する。			発達過程と クラスの相関性		満2・3歳1クラス、3・4・5歳児各1クラス、計4クラスで教育を受ける。 建学の精神に基づきながら幼稚園教育要領を取り入れ、全体的な計画及び年間指導計画等を作成する。 幼稚園Ⅱ型預かり事業と幼稚園一時預かり事業を含め、子どもたちの縦の関係を充実させる。		
教育時間等	1日5時間（9時00分～14時00分） ※年間39週を下回らない ※集団教育の中での園児一人一人の発達の理解に基づいた評価→職員の評価も含めた学校評価の確立。			教育5領域との整合性		キリスト教幼児教育と教育要領第2章の各領域が示す目的にそって教育を進める。総則にある資質・能力の3本の柱を実現するために努力する。		